

「聴覚障害児の教育課程」

教育学部 立入 哉

1. 授業の目的と内容

本講義は、聴覚障害児教育の大枠を知り、もって聾学校教員としての資質を備えられることを目的とした授業である。具体的には聴覚障害児教育の歴史、教育方法の変遷、聾学校教育の特徴、幼児児童生徒の各発達期順に教育課程論を展開している。

令和元年度、受講学生は22名であった。

2. 地域社会を核とした教育と研究のつながり

1) 愛媛県の聾教育の開祖者について

今年度、愛媛県の聾教育の開祖者（森盲天外）について、時間を設けて紹介する時間を設けた。今年度、道後温泉足湯と、愛媛県身体障害者センター前にある森盲天外の句碑をGoogle Mapを用いて、授業時間中に場所を探索することを試みた。また、昨年度の課題となっていた森盲天外の墓石を探索について、地域の歴史家から重要な手がかりを頂戴できた。しかし、今年度、その場所を尋ねるなど調査を深められず、教材化まで発展できなかった。

2) 地域のデータを活用する試み

従来は、「全国では・・・」という全国データの紹介を中心に行っていたが、本年度は、意識して「愛媛県では」あまたは「四国では」というデータを資料に加えるよう努力した。昨年度の障害者雇用率に関する公的機関の水増しの発覚を受け、今年度の改善率を愛媛県の労働局が発表している資料を用い、身近な話題として取り上げることができた。

3. Moodle3を用いた時間外学習の促進

4年前から、Moodleを利用し、授業映像と、関連する映像番組を視聴できるようにしている（図1）。平成29年度からMoodle3になり、学生が所持している携帯端末などで、映像を視聴ができない学生はいなかった。



図1：Moodle上の教材群

4. 「学習の手引き」を用いた時間外学習の促進

1) 「学習の手引き」について

本講義では、Moodle3を使用して、毎回の講義について、関連する資料や動画を紹介している。しかし、昨年度の反省点として、紹介しても、それらを活用しない（視聴しない）学生が多かった。

このため、昨年度から、①それぞれの資料や動画の「見るポイント」と、各講義の重要事項をまとめたA4、2枚の「学習の手引き」を作成した。これにより、学生にとって、毎回の講義について、復習すべき内容、Moodleの資料をどのように活用したら良いかを明確にした。②今年度は動画参考資料を絞り込み、長くても20分程度の映像に厳選し、長編の映像は20分程度に編集を行った上で、MoodleにUPするようにした。さらに、映像を視聴後に感想を書き込んだ学生には最終評価に+2点をおこなうことを連絡した。

2) 「小テスト」とのリンク

この「学習の手引き」で紹介したポイントについて、毎

回授業前に行う小テストに出題をした。授業→「学習の手引き」による復習→小テストという循環（図2）により、学習の効果をより高めることができた。

3) 授業映像の撮影とMoodle上での公開 平成29年度の講義の際、インフルエンザによる出席停止が多い時期に授業を動画撮影し、Moodleで視聴できるようにした（字幕なし）。しかし、これが授業欠席者だけでなく、出席者に好評であったため、昨年度から、すべての授業をビデオ撮影し、授業映像を授業直後にMoodleにあげるようにした。

4) 授業映像のYoutubeでの公開

今年度から、Moodleだけではなく、Youtubeに「限定公開」として、授業映像をUPLし、そのURLをMoodleにリンクを貼るようにした。これは聴覚障害学生が授業を欠席した際に、授業映像に字幕がないため、内容理解ができないという問題に対処するためである。

Youtubeの音声認識による自動字幕付与機能を用いた字幕付与はかなり明瞭な音声の収録がないと、正確な字幕とならない。このため、Bluetoothマイクを授業者が装着し、Bluetooth受信機をビデオカメラに接続し、收音される音声の明瞭度を上げたところ、専門用語の音声認識は不十分であるものの、配布資料で補えば、十分に理解可能な程度の字幕を自動付与できるようになった（図3）。

5) 資料等の配布の工夫

2年前から「授業スライド資料」「学習の手引き」「小

授業

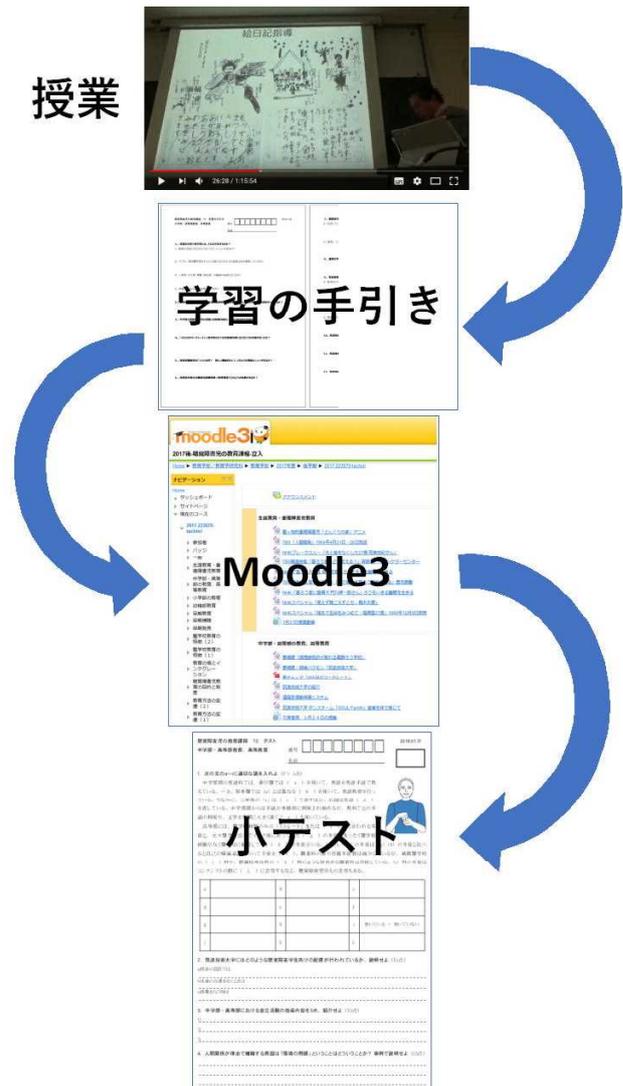


図2：授業から小テストまでの流れ

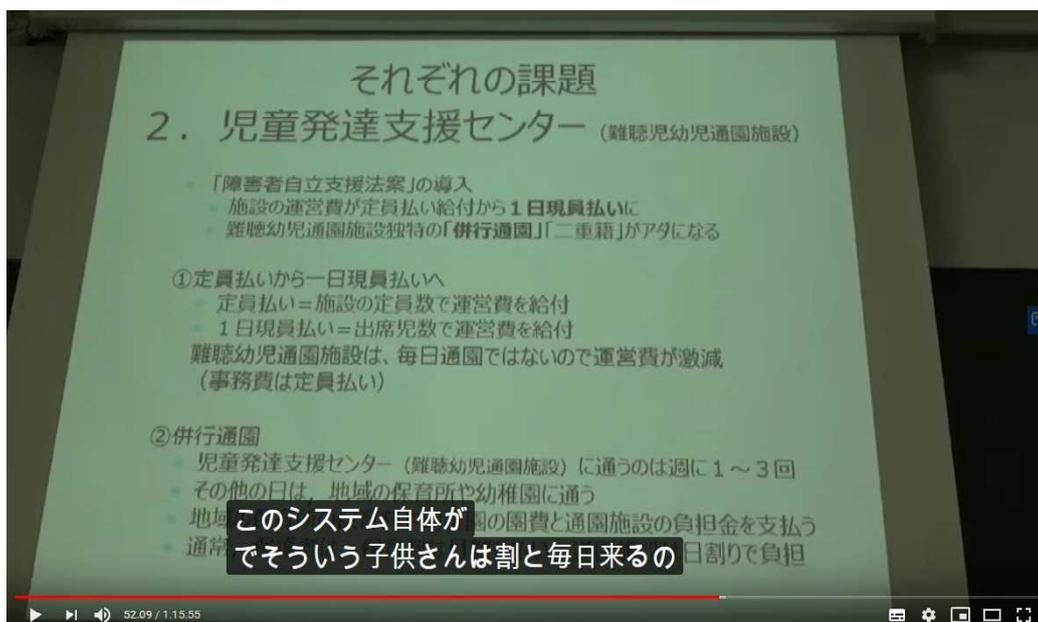


図3：Youtube上で自動付与された字幕付きの授業映像

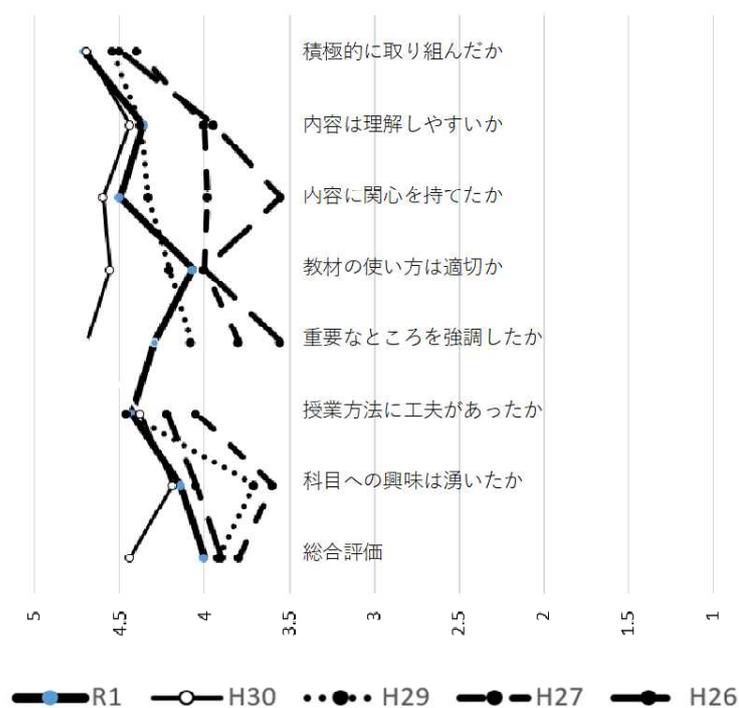


図 4 : 授業評価 (5 がもっとも高い評価)

表 1 : 授業評価 (5 がもっとも高い評価)

	R1	H30	H29	H27	H26
積極的に取り組んだか	4	4.44	3.92	3.8	3.9
内容は理解しやすいか	4.14	4.19	3.71	3.6	4.05
内容に関心を持てたか	4.43	4.38	4.46	4.05	4.22
教材の使い方は適切か	4.29	4.69	4.08	3.8	3.55
重要なところを強調したか	4.07	4.56	4.21	4	4
授業方法に工夫があったか	4.5	4.6	4.33	3.98	3.55
科目への興味は湧いたか	4.36	4.44	4.38	4	3.95
総合評価	4.71	4.69	4.54	4.4	4.5

テスト」「追加資料」には、綴じられるように左側に 2 穴を開けて配布していた。しかし、それでも、自分で「綴じる」ということをしない学生が散見されたため、授業開始時に背文字を入れたファイルを配布した。加えて、昨年度から、授業スライド資料はカラー印刷にした。これらは、期末には 12mm ほどの厚さになったが、期末試験時にはファイルを繰り返しながら見る学生が多く、ややお節介とは言い、授業を受けることで学習成果が見える効果はあったと確信している。

5. 独自アンケートによる効果の検討

1) 5 選択肢による調査

ここ数年、同じ講義に対して、同じフォーマットを用いて独自の授業アンケートを行っている。この結果を図に示した(図 4・表 1)。2 年前から「学習の手引き」を作成したことで、Moodle 上の教材を学生が活用でき、相乗効果があったと考える。結果、授業方法の工夫では評価が高まった。他の項目はほぼ例年並みの数値であった。

2) 自由記述欄

設問1：この授業で良かったこと

- ・スライドのカラーコピー
- ・ファイルの配布
- ・授業内容のVTR
- ・学習の手引き
- ・映像をたくさん使用していた
- ・視覚資料の多用
- ・ビデオで復習しやすい
- ・授業動画が復習に役立った
- ・授業時間内に終わるところ
- ・授業スタイルが決まっているところ
- ・先生の体験談が多く示されたところ
- ・ビデオが多く90分集中できる
- ・関連のビデオがあるとイメージしやすい
- ・授業内容にあった映像などの資料の有効的な使い方
- ・小テストで前回の内容の振り返りができた

設問2：改善すべきところ

- ・ムードル課題の映像が長かったり多かったりした

設問3：後期に他に良かった講義＝（回答なし）

設問4：Moodle動画の視聴率UPの対策について

- ・大学生は時間がない
- ・動画を見て、さらに小テストの勉強をしなければならず時間がなかった
- ・加点があることは知っていたが+2点とは知らなかった
- ・動画視聴に時間がかかり他の授業との兼ね合いで、書けなかったり 見られなかったりした
- ・視聴は本人の意思に委ねられているので、コメントの有無が視聴の動機付けにはならないと思う
- ・テスト前に動画を見て、感想は後回しにしてしまい、気づくと期限が過ぎていた
- ・好成绩を収めることを目標にしていない
- ・動画を絞る(長ければ1本短ければ2～3本)
- ・動機付けにならなかつたわけではなく、動画があまりに多くて視聴するだけで精一杯だった
- ・動画がもう少し短いものにしてほしい
- ・動画の量を減らす
- ・+2点は全体評価（100点）に入るのかどうか不

明瞭だった

- ・最初に「すべての動画に対してコメントを返せば40点あげます」等あれば意欲UPにつながった
- ・動画が長いと何回かに分けてみることになり、なかなか見られなかった
- ・コメントからたくさんのことを学べたし、知らないことも知ることができたので嬉しかった
- ・半分以上は書き込んだが、他教科の課題やテストで手が回らなかった
- ・感想を書く時間を小テストの勉強に使いたかった
- ・視聴を心がけたが量が多く対応しきれず、量をこなそうとすると書き込みの質は後回しになった

6. 総合的考察

評価は年々向上してきているものの、今年度は、初めて、「教材の使い方」で大きくマイナスとなった。今年度の変更点は、Moodleの動画の扱いである。自由記述欄に学生の指摘があるが、動画視聴率UPのための方策が十分に伝わっていなかったこと、昨年度に比し、UPした動画を多くして、自分が見たいと思う動画を選んで見て欲しいとの授業者の思いが十分に学生に伝わっていなかったことが大きいと反省している。

一方、学生は「積極的に取り組む」ことができおり、「内容の理解」「内容への関心」についても高評価であった。また、授業映像のYoutubeへのUPなど「授業方法への工夫」も高評価であった。

本講義「聴覚障害児の教育課程」について、90分×15講義でまとめ上げることは極めて難しい。その授業時間内では欠ける部分をMoodle上での動画視聴で補い、かつ、感想を書き込ませることで、一定の補充はできたと考えている。また書き込まれた感想一つ一つに授業者がコメントを返した。中には、「（授業者の）コメントからたくさんのことを学べたし、知らないことも知ることができたので嬉しかった」との感想も寄せられ、授業者と学生とのMoodleを通じた補習も行うことができた。これらによって、学生の学ぶ意欲の向上につながったと思う。